

今年度で29回目になる「**いじめについて考える集会**」を11月10日の5・6時間目に実施しました。学年ごとにテーマを決め、ハートコンタクトのメンバーが企画・運営の中心となって活躍しました。



ハートコンタクトは今から29年前、平成6年11月27日当時中学2年生だった本校の生徒がいじめを苦に自死した出来事を発端に、当時3年生だった生徒が、「**自分たちの手でいじめをなくす組織をつくろう**」と呼びかけて出来上がった組織です。その組織が中心となり、思いやりの常時活動や「いじめについて考える集会」を開催しています。

ハートコンタクトは自主的な組織であり、4月にメンバーの募集を行います。現在の会員は76名。全校生徒の約25%が所属しており、何年もその割合が減ることはありません。

1年生は**加害者とならないために**大切なことについて話し合いましたが、**傍観者の視点をもっと考えるべきだ**という意見が出たり、自死した生徒の遺書が範読されると**涙ぐむ生徒**が何人も出たりしました。

2年生は傍観者側で「**見て見ぬふり**」にならないために、どうしたらよいかを中心に話し合いました。全員が前のめりになって真剣に話し合いました。

3年生は卒業後のことを踏まえ、「**新たな環境で自分らしく生きるためには**」をテーマに、全員が真剣に自分事として話し合っていました。3年生ともなると話し合いで出てくる意見は、どれも現実の体験を踏まえ、教師の想定を超えていました。涙ながらに自分の体験を踏まえて主張してくれた子もいました。

「自分らしくとは」という司会者の質問に、「自分の気持ちをしっかりと持つこと。他人に流されるのではなく、自分の考えたことを言えること」「自分を崩さず生きるということ」「悪い意味で他人に振り回されないこと」「自分から何か発信していくこと」「自分は、今、考えているのが自分。自分がしたいことができる場が未来にはある。自分らしくとは自分がしたいようにすること」など、深い意見が途切れることなく続きました。

当日は、大阪の公立中学校の先生方も見学にみえましたが、真剣に深く話し合う姿を見られて「**同じ中学生と思えません。カルチャーショックです。**」とお褒めの言葉をいただきました。

心に残る授業を創り上げている生徒が誇らしいです。

